

▼茅葺き職人、小林亀清さん



茅ふきたより

「巻頭インタビュー」

さからわずに工夫する自然の知恵

富山県「森の名手・名人」茅葺き認定者、82歳

小林亀清

森にいますとね、いろんな生き物が生まれ育つという、あたりまえの流れに今でも気付かされますよ。

も く じ

- 01 巻頭インタビュー さからわずに工夫する自然の知恵
- 02 会からの報告 文化庁ふるさと文化財の森
- 04 システム推進事業普及啓発事業
- 05 会員からの活動報告 富山県「朝霧高原」の茅葺きより
- 06 会員からの活動報告 茅場モニュメント
- 07 茅葺き集落の紹介 きもち金持ち 福島県天栄村
- 08 ニュース 第2回茅葺きフォーラム
- 09 各地の取組み紹介 ミナト神戸で行う
- 10 「茅葺き屋根とふれあう月間」
- 11 朝霧高原の地域資源を活かす

私は五箇山で毎日、山の木の手入れをし

たり茅屋根を葺いたりすることが天職だと思いつつながら楽しんでいますが、自然から、先人からも、「なるほどなあ」と思うことがたくさんもらえます。

知恵と工夫によって、自然の合理的なところや適材適所のよさ、何かあっても元に戻せる力とかが、きちんと「技」というもので伝えられておりますね。合掌造りの屋根をさわっているだけでも、感じますよ。

そりゃあ、昔から五箇山の屋根はどろくさいというか、風土そのものというか、まわりの環境に合った屋根が守られております。私の上平集落では、とにかく何があっても春祭りまでにあげんならん。それで天候もあるから、屋根仕事は一日でおさめる。きれいで、雨がもらないことが優先されます。そこから屋根の角を切らずに丸みのある屋根になる。棟も茅を置いたムネツツミを、木の目にそったクリ材の「ののせ」とどめるだけ。

昔は一年に一度はかならず上がるものでした。

屋根の葺きかえも合理的にやります。茅のユイというのもありました。茅は各家によって収穫量も違いますから、屋根全体を分割して、葺ける分だけやります。割り葺きで、シマブキといいますが、新旧の茅が重なるところの葺き合わせが技術どころですね。昔からサシガヤはせずに、この葺き替えをします。まあ、だから茅葺き屋根って、私は50年もつというのも30年もつというのも本当やと思います。

ハフは五箇山の葺き方に特徴がありますね。丸くするんですが、ハフジリからは長い茅を垂直につけて上がり、途中から強い勾配で水切りを早くするために、短めの茅をつけるんです。合掌の距離が長いぶん、乾きが悪いので生まれたやりかたなんですね。

自然を素直に受けとめて暮らしてきた先人たちの工夫には、深さを感じますよ。（聞き手 坂本善昭）

「会からの報告」

文化庁ふるさと文化財の森

システム推進事業普及啓発事業

平成22年度文化庁ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業として、五箇山の茅場と茅葺き文化の維持保全活用をはかるための普及啓発事業をおこないました。

カリヤスの茅刈り体験研修と

市民講座①

フォーラム 中坊真)で学ぶことで、これからの合掌造りの維持、保全について活発な議論が行われた。

相倉集落の茅場(集落近くの造成した茅場と山の茅場の二カ所)において、熟練者の指導のもと、大学生や市民が五箇山で屋根葺きに使用されるコガヤ(カリヤス)の茅刈り体験研修を行った。あわせて、山の急斜面にある茅場での維持管理や茅刈りの方法を学ぶ貴重な体験研修の場となった。

〔日時〕平成22年10月30日(土)～31日(日)

〔場所〕相倉集落茅場

〔対象〕小学生、一般市民、地元住民

〔参加者〕市民講座25名、茅刈り体験10名

合掌造りはもともと養蚕を産業とするための住まいであった。現在は養蚕を終え、周辺環境も一変している。養蚕が盛んであった昭和初期から現在まで、茅場の分布や維持管理方法の変遷について、市民講座「五箇山の茅場の分布と変遷」(UR都市再生機構 和田尚子)で学び、さらに他地域の草資源の多目的で多様な利用方法について、「草の多目的利用とその支援活動」(NPO九州バイオマス



市民講座①「五箇山の茅場の分布」「草の多目的利用とその支援活動」



写真右／参加者全員で茅刈り体験 写真左／急斜面にある茅場を見学



カリヤスの茅葺き体験研修と

市民講座②



〔日時〕平成22年11月20日(土)～21日(日)

〔場所〕合掌の里(菅沼集落内)

〔対象〕小学生、一般市民、地元住民

〔参加者〕市民講座40名、茅葺き体験35名



市民講座②「五箇山の茅葺きの技」「人と生き物がにぎわう茅場・草地」

五箇山の合掌造りの茅葺きの葺き方、道具、維持管理の方法について、市民講座「五箇山の茅葺きの技」(日本民俗建築学会会員 杉原バーバラ)で学び、さらに生物多様性の宝庫としてその価値が再評価されている茅場をはじめとした草地について、「人の生き物がにぎわう茅場・草地」(全国草原再生ネットワーク会長 高橋佳孝)で学ぶことで、屋根葺き材料としてだけではなく、茅場の持つ多様な価値について再認識された。また、江戸時代の山間集落として草地の多目的な利用方法や茅場の分配について、「五箇山の基盤割 茅場の分配」(南砺市教育委員会文化課長 浦辻一成)で学んだ。

菅沼集落の茅葺き体験施設にて、森林組合の技術者の指導のもと、幼児から



カリヤスの茅葺き体験研修（ネソ練）



表から葺く班と裏で縄とりにする班に分かれて体験

大人まで、ネソ練り、ネソ縛り、縄結びも含めて、五箇山の屋根葺きの技について体験研修を行った。



「五箇山の茅葺きと合掌造りの暮らし」パネル展

とした。

「来場者」延べ1000名
五箇山のかつての茅場の風景、維持管理、茅刈り、屋根葺きの技のパネルを制作し、合掌造りの民家にて、パネル展を開催した。あわせて全国の茅葺き集落の写真パネルも展示し、材料や葺き方、屋根のかたちの違いを比較できるパネル展とした。

「日時」平成22年10月30日（土）～31日（日）、11月20日（土）～21日（日）
「場所」相倉合掌造り交流館「高桑家」、合掌の里

「五箇山の茅葺き」
茅刈りから茅葺きと
合掌造りの暮らし」パネル展

催した。朗読会後の質疑応答では、合掌造りのしくみや屋根のかたち、材料の茅の性質、葺き方、他の地域の茅葺きとの違いなど、1年生から6年生まで多くの子供たちから手を挙げての活発な質問があった。朗読会に参加した地元の茅葺き職人が子供たちの質問に答える場面もあり、未来の担い手である子供たちへ地元の茅葺き文化を伝えるためのよい交流の場ともなった。

五箇山の合掌造りの技と暮らし方について、住民や職人への聞き取りと収集したこれまでの研究資料をもとにして、子供たちにわかりやすく解説する絵本を制作した。制作した絵本を紙芝居形式にして、五箇山の二つの小学校で朗読会を開催した。

「日時」平成23年3月10日（土）
「場所」富山県南砺市立平小学校、上平小学校
「対象」小学1～6年生、教員
「参加者」平小学校37名、上平小学校53名（いずれも全校生徒が参加）

「五箇山の合掌造りの
つくりかたと暮らしかた」
絵本制作・朗読会



紙芝居形式で朗読会を行った



真剣に耳を傾ける平小学校の子供たち

「会員からの活動報告」

富士山麓「朝霧高原」

の茅だより

NPO法人富士山麓観光まちづくり

研究所理事長 岸野正美



はまだ青いうちは「マグサ」穂が出て「スキ」枯れて「カヤ」と出世魚のように名づけ、人々の生活と茅が密接につながっていた様子が窺えます。しかしながら、最近ではお茶のマルチ素材等としての用途にとどまり、約三百年前から行われているという野焼きは続けられているものの、住む人と茅場との関係は希薄なものとなってしまいました。

このような状況のなか、私どものNPO法人では、「富士教育訓練センター」旧建設省建設大学の廃校を機に設立された職業訓練法人」との共催で昨年11月に朝霧高原で「茅刈り技能講座」を開催しました。

観光まちづくりと茅刈り？と疑問に感じられたと思いますが、NPOの企画段階から富士河口湖町「西湖いやしの里」の茅葺を担った「かや吉」杉寄代表がメンバーの一員として参加していたことから、事業の一環として地域の茅葺き文化や貴重な茅葺き建築を大切な資産として継承させる取組みを行うことにしたものです。

NPOとして、最初の取組みが茅刈り講座ですが講座の目的は、単に茅を刈る技能のみならず、屋根の素材としての茅、茅葺きの特徴やわが国の茅葺き文化等に関する知識も習得願うことにありました。幸いにも、当協会の安藤代表理事



に講座を、御殿場の（有）富士勇和産業の皆さんと富士吉田の堀田さんに茅刈りの技能講習をお願いしたところ、皆さん多忙のところ快く引受けてくださり、お蔭様で充実した講座となりました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。



今後、受講された方々が核となり、茅葺き文化のすばらしさが各方面で伝授されるとき、できる限り早い機会に皆様に朝霧高原の茅もご覧頂く機会があればと願っています。



「会員からの活動報告」

茅場モニュメント

広島県東広島市志和町志和堀

西中国茅葺き民家保存研究会 上田進

一昨年の茅刈りイベントの参加者から刈り取ったススキで茅葺きを体験してみたいとの要望があり「茅葺き体験イベント2010」を企画。茅場の一角において茅ボウトウに似せた五角形（竹組み）の茅場モニュメントの屋根葺きを一般参加の20名が初体験。

茅場は耕作放棄地で十数年荒れ放題で自然にススキが群生していたのを地元茅葺き職人・石井元春さんが平成20年より借り受けて茅場としている。それに便乗し当会で参加者を募り毎年12月に茅刈りイベントを開催してきた。

一帯に立ち並ぶ茅ボウトウは冬の風物詩として道行く人々の目を楽しませ遠路から写真家や画家が訪れる。地元からは茅場モニュメントを交流の場にしたいとも。尚、志和堀地区には7軒の茅葺き屋根が現役で残るが10年前には16軒のことを思うと激減している。

昨年3月のイベントで制作した逆葺き（薄葺き）のモニュメント【写真右】は格好が悪いからと茅職人・石井元春さん

達が昨年11月にボランティアで本葺きにされた。【写真左】



「茅葺き集落の紹介」

きもち金持ち

福島県天栄村 小山志津夫

国道118号は鳳坂峠、川合玉堂が「日本海太平洋とわかれく峠の茶屋の雨だれの水」と詠んだその分水嶺から、西に10kmばかり下ると「岩瀬湯本温泉」に辿り着く。ここの開湯が千二百年も遡る嵯峨天皇の頃だと湯泉縁起は伝えているが、源泉を守り続けている茅葺きの大屋根を見上げれば、誰もがさもありなんと許してしまえるほど重厚である。

岩瀬湯本の茅葺き集落の風情は漫画家つげ義春のペン画にも残されているが、我が国の高度経済成長とともに手間のかからない楽ちんな暮らしが求められ、民家から囲炉裏が消え、茅葺きの屋根が消え、そして集落から茅場が消えていった。今では地域の宝である「結い」の精神さえも消えかかろうとしている。

『きもち金持ち』雪深い山村のこの地では冬越えの薪割りを終えた頃の軒下に高く積み上げられた薪棚の光景をこう言い表す。この金言は薪と囲炉裏がその役目を終えた時、茅葺き屋根がトタン板を覆ったその時を境に使われなくなってしまうが、気持ちは常に豊かでありたいものだ」と有志が立ち上がり、古民家保全と

写真提供者：富田昇（東北大学）
情報検索：「EIMY湯本」



茅場再生の取り組みが始まった。東北大学・筑波大学・大内宿との連携によるそのプロジェクトのスローガンは「まわす風」のちからで土のちからである。

「茅葺きの小屋」

岩瀬牧場のトウモロコシ乾燥小屋

東京理科大学 濱定史



岩瀬牧場は福島県の中央、須賀川市と鏡石町に敷地を跨ぐ広大な敷地を持ち、明治13年に国内初の西欧式国営牧場として創設され、文部省唱歌「牧場の朝」のモデルともなっている牧場である。国営牧場から民営化された後、牧畜用とホルスタイン種の乳牛をオランダから直輸入して大型酪農経営が開始され、この地域



の産業と文化を牽引した歴史がある。

牧場内には、明治時代に建築された日本最古のサイロ、木造の厩舎などの貴重な牧場建築が当初の姿を殆ど変えずに活用され、樹齢一〇〇年を越える樹木が当時の牧場の造園の骨格を残している。

この中でも、道路沿いの入口付近に2棟並んだ茅葺屋根のとうもろこし倉庫は、一際目を引く。この2棟の倉庫は、それぞれ2間×5間、3間×6間の小さな1室の木造倉庫であり、明治初期に建てられた建物として市指定文化財となっている。壁と床のすべてを格子状にしたその姿は、さながら茅葺屋根をかけた大きな虫かごのようにも見える。

とうもろこしは南北アメリカが原産の、インディアンやアステカ、マヤの人々の主要な穀物であり、日本には1579年に、ポルトガル人が伝えたのがはじめとされる。痩せた土地でも良く育つことから備荒対策として徐々に広まり、明治初期から畜産の拡大とともに本格的に全国に広まった。飼料としてのとうもろこしは、備蓄保存するにあたり良く乾燥させておく必要がある。

このため、岩瀬牧場のとうもろこし倉庫では、90cmほど高床にして地面からの湿気を防ぎ、壁面と床面は全て格子状にして風通し良くするつくりとしている。こうした高床で壁面を格子状にすると

うもろこし倉庫は、木造だけでなく石造のものが欧州各地にみられる。岩瀬牧場のとうもろこし倉庫は、これらの形を手本に、日本の伝統的な技術で建てた倉庫

であり、西欧の技術を積極的に取り入れ、新しい産業を興すという明治の人々の開拓精神を感じさせる。



「各地の取組み紹介」

ミナト神戸で行う

「茅葺き屋根とふれあう月間」

神戸市北区まちづくり推進課



「神戸」と言えば、「みなと町」をイメージされる方が多いと思いますが、六甲山を越えた北側には、豊かな田園風景が広がっています。

六甲山の北側、神戸市北区には、約

750棟の茅葺き民家が現存しています

(平成20年度調査)。神戸市北区役所では、茅葺き民家が数多く残る豊かな田園景観を「自然と共生する北区での里山暮らしのシンボル」として位置づけ、後世にも残していくことを目的に、平成20年度から茅刈りや啓発シンポジウムなどに取り

組んでいます。

その取り組みの一つとして、平成22年度は「茅葺き民家を活用する」ことを目的に、「茅葺き屋根とふれあう月間」と題して、地域団体との共同により4つのイベントを実施しました。

【イベント概要】

○イベント期間

平成22年11月7日(日)

～12月4日(土)の週末「4回」

○イベント内容

■音楽ライブ@箱木千年家

「箱木千年家」は、日本最古の茅葺き民家と言われ、国の重要文化財に指定されています。元々は民家として住まれていましたが、ダム建設時に移築されてからは、見学するのみになっていました。この度、「淡河かやぶき屋根保存会く

さかんむり」代表相良育弥氏の企画による音楽ライブを開催することにより、千年以上の歴史を持つ茅葺き民家に新たな息吹を送り込みました。

■陶芸教室@十場家

茅葺き民家で「つくも窯」を営む陶芸家十場天伸氏の協力により、屋根裏を活用した陶芸教室を開催しました。

■クラシックコンサート@赤井家

赤井家は、市の文化財に登録されている茅葺き民家で、参加型による屋根の葺替えや土壁塗りに取り組み、昨秋に再生しました。

そのこけら落としとして、「長尾かやぶき屋根保存会」と共同で、クラシックコンサートを開催しました。新しく生まれ変わった茅葺き民家に、ヴァイオリンとクラシックギターの音色が美しく響き渡

りました。

■茅刈り@花山中尾台

住宅団地の道路法面を活用して、平成20年度から参加型による茅刈りを実施しています。刈った茅は、北区内で文化財に登録されている茅葺き民家の葺替え材料として活用しています。

イベントには延べ350人の人が訪れました。参加者からは、「普段聴くことのない音楽と茅葺き民家の組合せが素敵だった」、「茅葺き屋根の下での陶芸は楽しかった」などの感想をいただきました。

「茅葺き屋根とふれあう月間」は、23年度も引き続き開催を予定しています。昨年と同じく区内の茅葺き民家を活用しながら、多くの皆さんに茅葺き民家の良さを知っていただけるようなイベントを、地域の人達と共に企画したいと考えています。



音楽ライブ@箱木千年家



陶芸教室@十場家



クラシックコンサート@赤井家



茅刈り@花山中尾台

【ニュース】

「第2回茅葺きフォーラム」開催



近年、急速に茅葺きが失われる中で、

その地域資源としての価値が再認識されています。それは単に茅葺きの屋根のか

たちの美しさや茅葺き民家のある風景への郷愁ばかりではありません。茅葺き屋

根をつくる材料としての茅（山野のススキ、水辺のヨシなど）のつくる草原が、

環境保全や生物多様性の宝庫、バイオエ

ネルギーの資源として見直されているからでもあります。九州は、阿蘇をはじめ

として、日本でも有数の草原を有する地域として、茅葺き民家や草原を観光資源

や地域産業として活用する試みが始まっています。そこで、第2回茅葺きフォー

ラムでは、鹿児島南九州市を会場に、そのいくつかの試みを報告するとともに、

茅葺きの担い手である職人の話を交えて、地域資源としての茅葺きと草原の未来に

ついて、話を深めたいと思います。

みなさまのご参加をおまちしております。申し込み、お問い合わせは事務局まで。

〔日時〕平成23年6月4日（土）、5日（日）

〔場所〕南九州市知覧町
ちらん夢郷館ホール

「スケジュール」

■6月4日（土）

・平成23年度総会

・開催地報告

・「知覧の町並みと茅葺き民家」

・「重要文化財二階堂家門修理について」

・第1セッション『茅葺きは地球資源』

・「阿蘇の草資源利用の多様性」

・「地域産業と茅葺きの宿」

・「人吉球磨の茅葺き文化財」

・第2セッション『茅葺き職人談義』

・「国宝青井阿蘇神社の葺き替え」

・「阿蘇の茅刈りと茅葺き」

・「日田の杉皮葺き」

・「知覧茅葺き技術保存会の取り組み」

■6月5日（日）

・見学会Aコース

・知覧武家屋敷見学、

茅葺きの宿「雅叙苑」見学および昼食

・見学会Bコース

・知覧武家屋敷見学、

茅葺きの宿「雅叙苑」見学および昼食、

熊本県人吉球真磨見学（青井阿蘇神社・

国宝、青蓮寺阿弥陀堂・国重文、太田家

住宅・国重文、明導寺阿弥陀堂・国重文）

シンポジウム

「朝霧高原の地域資源を活かす」



富士山麓一帯は、全国の文化財修復に使う質の良い「茅」の産地であり、朝霧高原はブランド茅を産出する「茅場（かやま）」として期待を集めている。

国立公園でもある地域の景観保全や生物多様性の確保、茅葺き文化の再生・継承といった観点から、朝霧高原の「茅場（かやま）」が注目されるようになってきている。

〔日時〕5月15日（日）13時～15時半

〔場所〕富士宮市立井之頭中学校 体育館

〔スケジュール〕

・基調講演「茅葺き文化の再生による地域活性化」安藤邦廣

・パネルディスカッション

・コーディネーター

木村悦之（東京農業大学准教授）

パネリスト

麻生恵（東京農業大学）、安藤邦廣（筑波大学教授）、植松高豊（猪之頭区ふ

るさと委員会委員長）、岸野正美（N

PO法人富士山観光まちづくり研究所

理事長）、吉川喜代晴（前根原区長）

猪之頭ウォーク／猪之頭の地域資源を

めぐる（井之頭中学校→陣馬の滝→

遠照寺→旧鱒の家→希望の森

茅ふきたより 第2号

2011年3月31日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4212 茨城県つくば市神郡108

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL <http://www.kayabun.or.jp>

このたびの東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。この「茅ふきたより」第2号は3月10日時点で編集したものを印刷してお届けしております。

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！

茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。

茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。